

■様式No.1 ◆防除をより一層進め低密度化を図るために、詳細記録の記入に協力をお願いします。

防除年月日		年 月 日 ~ 月 日					防除従事者名		参加人数		名			
罨仕掛時間・罨引揚時間		年 月 日 : ~ 月 日 :					防除方法		素手 ・ タモ網 ・ 電気ショッカー					
防除場所(河川名・地点名)									どう罨 ・ カゴ罨 (もんどり ・ カニ籠 ・ アナコ籠)					
素手 タモ 罨No	設置座標			罨仕掛時 水温℃	罨引揚時 水温℃	川幅 m	水深 m	流速 m/s	河床形状・底質 (解説記事参照)		河畔植生 (解説記事参照)		混獲生物・同居生物 (解説記事参照)	
素手 タモ	(上流端)N: E: (下流端)N: E:			当日水温:										
1	N: E:													
2	N: E:													
3	N: E:													
4	N: E:													
5	N: E:													
6	N: E:													
7	N: E:													
8	N: E:													
9	N: E:													
10	N: E:													
河床形状・底質の解説				1=岩盤、2=泥(0.25mm以下)、3=砂(2mm未満)、4=小礫(2mm以上16mm未満)、5=中礫(16mm以上64mm未満)、6=大礫(64mm以上128mm未満) 7=巨礫(128mm以上)、8=流木 ※河床形状は「早瀬・平瀬・淵・淀み等」、底質は代表的な底質で優占1~3位の底質を記入										
河畔植生の記入例				広葉樹(不明)、ヨシ、フキ、トクサ、イタドリ、草類(イネ科不明)、シダ類、エゾヤナギ、ヤチハンノキ、イタヤカエデ ※わかる範囲で代表的なものを記入										
混獲生物・同居生物の記入例 (素手・たも網等の場合は、流程内で捕獲した生物名と数を記載)				エゾウグイ(不明な場合はウグイ属)6cm×3、フクドジョウ10cm~12cm×4、ハナカジカ10cm×1、ニジマス20cm×1、モクズガニ甲幅6cm×1、スジエビ6cm~10cm×10、ヨコエビ×12、カワニナ、カワシンジュガイ、ヒゲナガカワトビケラ幼虫×4、モンカゲロウ属幼虫×7、ヘビトンボ幼虫×3、サクラマス死骸60cm×1、サケ死骸70cm×1、ヤマメ8cm×1 ※可能な限り生物名・サイズ・数をわかる範囲で記入										
殺処分年月日		年 月 日			殺処分方法									
No	全長 (mm)	頭胸甲長 (mm)	湿体重 (g)	♂ (雄)	♀ (雌)	稚 ザリ	個体部位の欠損状況 無/有(右/左、第x歩脚、欠/中/小)		抱卵有無 無/有(未発眼/発眼/抱稚仔*)		精包付着 無/有	記事(脱皮状態、稚エビ等) (罨複数の場合は罨Noも記載)		罨No. タモ採り
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
* 全長(TL): 額角先端部から中央尾扇肢先端までの長さ(頭胸甲長50mm以上の場合に記入)。 * 頭胸甲長(眼窩頭胸甲長: CL): 眼窩後端から頭胸甲部正中線上の後端部までの長さ。														
* 精包付着: 第3歩脚~第5歩脚の中央部に♂の精子(白色)が付着状態。 * セメント腺: 腹部両端及び尾扇肢に白色のセメント腺が現れる。 (セメント腺は、10月頃、産卵に備え卵を腹部に定着させるため発達してくる)														

No.2

[illegible]